

世田谷版気候市民会議

第3回会議の開催報告

1.開催概要

当日は、これまでの成果を振り返り、専門家から脱炭素社会に向けたトランジションのお話を聞いたうえで、グループワークを行い、身近な暮らしの脱炭素化に向けたロードマップを検討しました。また、最後には各グループから検討した結果を発表し、政策提言を世田谷区長へ提出しました。

テーマ：区への政策提言をとりまとめよう！

日 時：2025年3月2日（日） 13:00～16:30

場 所：世田谷区立教育総合センター 研修室（たいよう）

参加者：32名



2.当日のプログラム

時刻	時間	プログラム
13:00～	3 分	開会
13:03～	7 分	【グループワーク】参加者同士の自己紹介と近況報告
13:10～	5 分	これまでの振り返りと政策提言のとりまとめ方
13:15～	25 分	【講演】脱炭素社会に向けたトランジション 松浦 正浩 明治大学専門職大学院 ガバナンス研究科（公共政策大学院）専任教授
13:40～	10 分	【グループワーク】講演を聞いた感想・質問の共有
13:50～	5 分	講演に対する質問と回答
13:55～	10 分	休憩
14:05～	5 分	グループワークの進め方
14:10～	50 分	【グループワーク】 身近な暮らしの脱炭素化に向けたロードマップの検討（前半）
15:00～	5 分	中間講評
15:05～	45 分	【グループワーク】 身近な暮らしの脱炭素化に向けたロードマップの検討（後半）
15:50～	20 分	各グループの最終発表
16:10～	5 分	まとめ 松浦 正浩 明治大学専門職大学院 ガバナンス研究科（公共政策大学院）専任教授
16:15～	8 分	政策提言の提出と世田谷区長からのメッセージ
16:23～ 16:30	7 分	閉会、事務連絡、集合写真の撮影

3.当日の様子

■講演と参加者からの質問の様子



【講演】脱炭素社会に向けたトランジション

松浦 正浩 明治大学専門職大学院
ガバナンス研究科（公共政策大学院） 専任教授



講演に対する質問と回答

■グループワークと最終発表の様子



【グループワークと最終発表】身近な暮らしの脱炭素化に向けたロードマップの検討



■政策提言の提出と世田谷区長からのメッセージの様子



政策提言の提出

世田谷区長と参加者代表の4名



世田谷区長からのメッセージ

保坂 展人 世田谷区長

ミッション① 太陽光発電設備の設置（テーマ１ メリットや意義の理解）

①太陽光発電設備の設置

2050年目標
既存住宅において最大限太陽光発電設備が設置されている

テーマ1
メリットや意義の理解

2020年以降の太陽光発電の普及

最適化・不安定化・混乱

一般化・安定化

実証・実証・加速・成長

崩壊・消滅

左上：集みたいシステム 右上：散りたいシステム
左下：広めたい実証 右下：広めたい実証

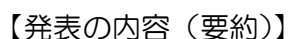
第2回会議までの成果
(特にトランジションに関わりそうなもの)

第3回会議で参加したものの

ワークシート提供： 横浜国立大学大学院グローバルビジネス研究科（公衆健康学） 連携教授 松本 浩一

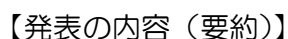
- ・ 電気や太陽光発電について、現在どのような状態であるか、私たちがどのように感じているかを話し合いました。
- ・ その結果、私たちは、電気がどのように作られ、どのように家庭に届いているのかも知らないということに改めて気づきました。また、日本には資源が少ないということも再確認できました。
- ・ 太陽光発電を広めていくために、災害時にも電気を供給できるという防災の視点を伝えたり、もっと太陽光発電をすてきなものにして、身近に捉えてもらえるようにしたいと考えています。

【ワークシート】



- ・ 左上の「脱炭素社会へ向けた障壁」については、まず、太陽光発電がどれだけ脱炭素化に寄与するのかをほとんどの人が知らないという点が挙がりました。また、突き詰めていくと、どの業者が良いか、いつ設置すれば良いか、どのように設置すれば良いかがわからないなど、細かい障壁がたくさん挙がりました。
- ・ 左下の取り組みについては、既に太陽光発電設備を設置している家庭に対して、実際にどれだけのお得感があるのかを報告してもらい、それに対して世田谷区がポイントを付与するなどし、それらの情報を世田谷区のホームページ上に掲載して宣伝してもらいたいと考えています。
- ・ また、新築 10 年後や 20 年後、25 年後などにやってくる、外壁や屋根の塗装などのタイミングで、太陽光発電設備のことをお知らせしてもらいたいと考えています。
- ・ その他、イベントや展示などで宣伝することも大事だと考えています。

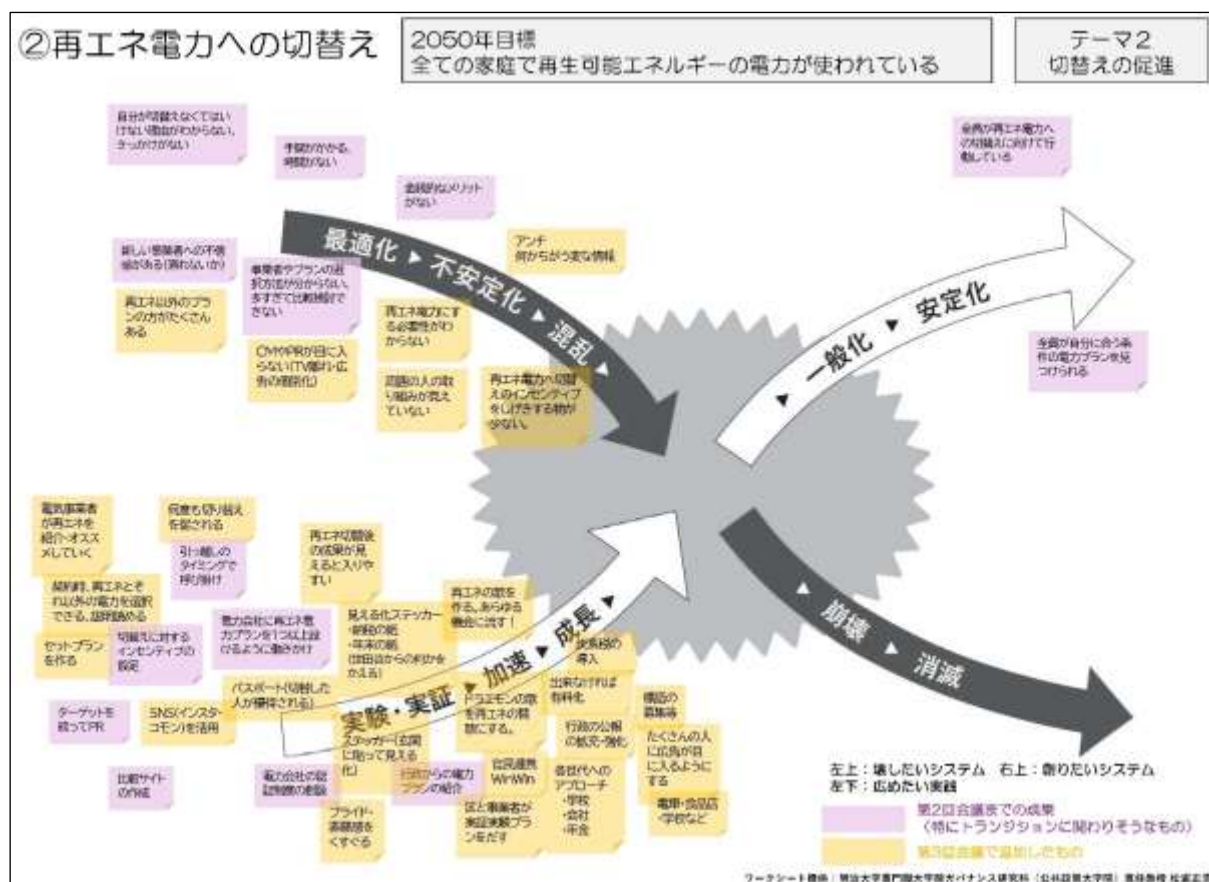
【ワークシート】



- ・ 実際には私は再エネ電力へ切り替えましたが、切り替えたことを誰かに伝える機会がなく、そのために周りに広がって行かないことに気づきました。また、誰かに伝えたいという気持ちになるためには、再エネ電力へ切り替えることで何か良いことがないと難しいと考えました。
- ・ そのために行えることを左下に挙げました。例えば、ヨーロッパでは、LGBTQ を支援している人たちの家庭に、虹色の風車が飾ってあったりします。それと同じように、再エネ電力へ切り替えた人にシンボルになるようなものを配り、家に設置してもらいたいと考えています。
- ・ また、学校教育で普及させたり、不動産会社に協力してもらったりする必要があると考えています。
- ・ その他、駒沢公園などの施設利用の予約の際に、再エネ電力へ切り替えている家庭に対する優先枠を設けてもらいたいと考えています。

ミッション② 再生エネ電力への切替え（テーマ2 切替えの促進）

【ワークシート】

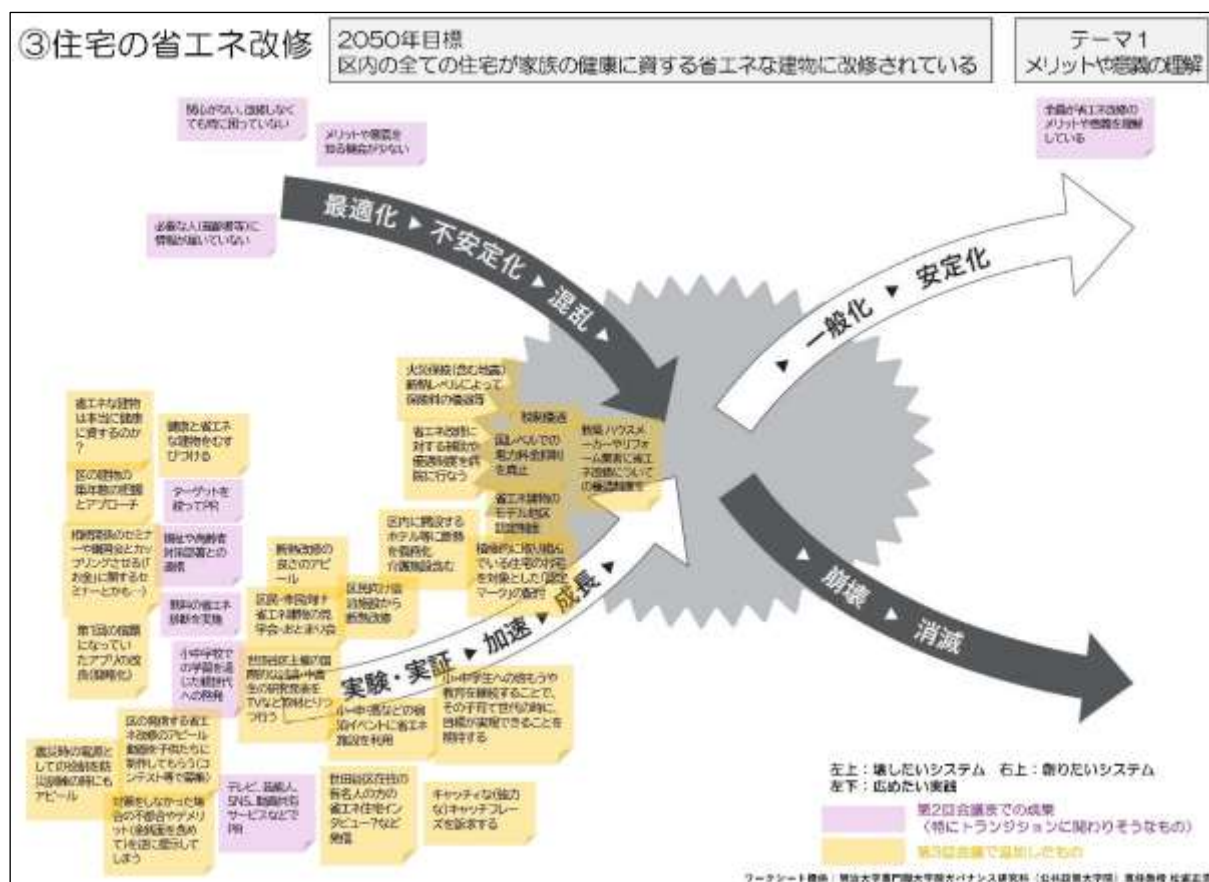


【発表の内容（要約）】

- ・ 私たちが考えたのは「世田谷モデル」です。区民がプライドを持って再エネ電力を「良いよね」、「切り換えないとダメだね」と思うためのブランド化や見える化をするというものです。SNSなどでアピールしたうえで、再エネ電力へ切り替えた人にカードを配り、そのカードを使うとスーパーなどで少し割引してもらえるようにしたいと考えています。
- ・ また、世田谷区で再エネ電力へ切り替えると少し安くなるように、電気事業者と連携する必要がありますと考えています。
- ・ その他、官民連携しながらお互い Win-Win となるような民間企業を探す必要があります。例えば、自動車ディーラーでEVを買った人に、再エネ電力をお勧めしてもらいたいと考えています。
- ・ このように再エネ電力を普及させて行き、最後の残りの層については、切り換えないとデメリットになるような仕組みを用意しておく必要があります。例えば、毎月、電気料金を支払うたびに、「切り換えませんか」としつこく聞くようにして、2050年には全員が再エネ電力へ切り替えられるようにしたいと考えています。

ミッション③ 住宅の省エネ改修（テーマ1 メリットや意義の理解）

【ワークシート】

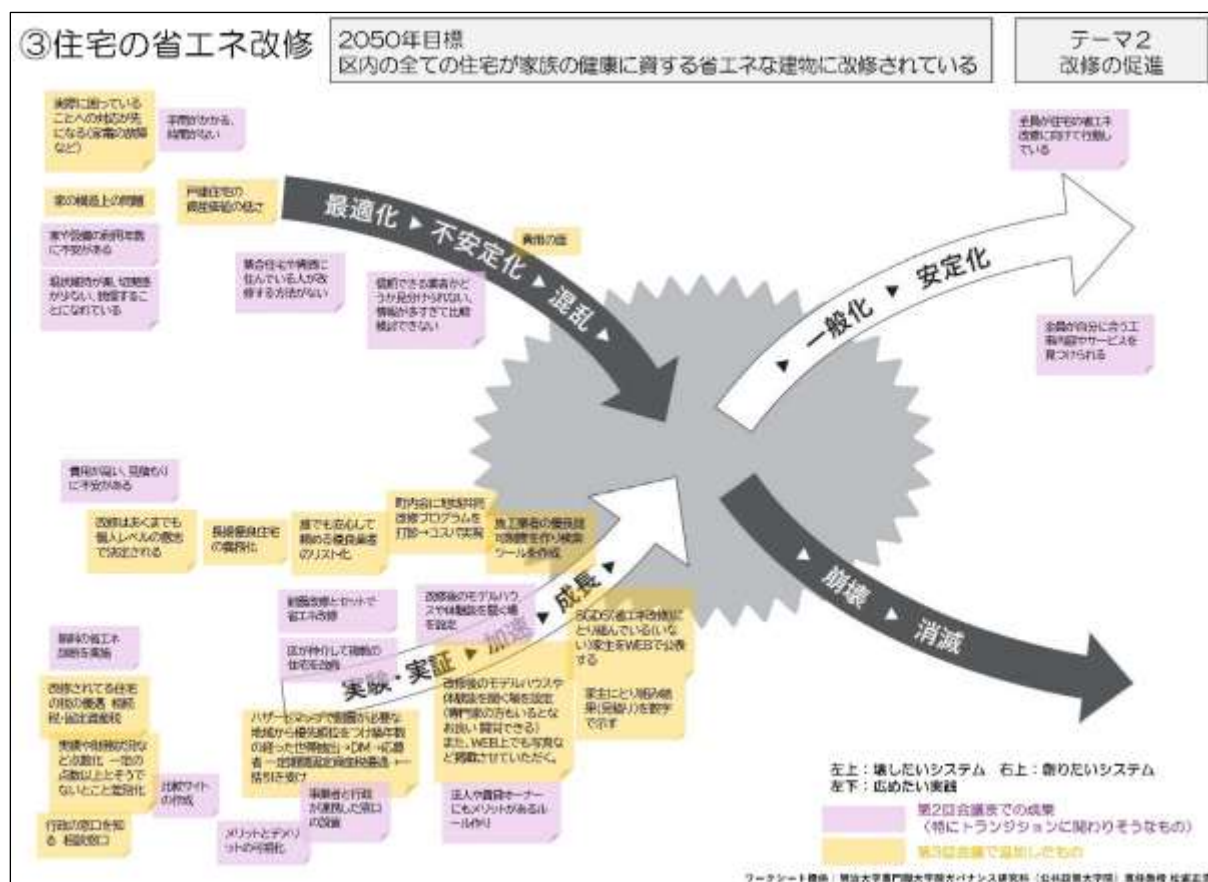


【発表の内容（要約）】

- ・ 第2回会議までの成果（ピンク色のふせん）に対して深掘りをしながら、具体的な取り組みを話し合いました。
- ・ 世田谷区や区民だけで、全員がメリットや意義を理解している状態にするのは難しいため、金融機関や宿泊施設、介護施設、ハウスメーカー、工務店などを巻き込むようにしてアピールしたいと考えています。
- ・ 例えば、第2回会議までに挙げた「ターゲットを絞ってPR」や「無料の省エネ診断を実施」に関しては、区民向けの省エネ建物の見学会を開催するだけでなく、宿泊施設から断熱改修をしてもらいたいと考えています。また、区内の宿泊施設や介護施設に断熱化を義務づけるべきという意見もありました。
- ・ その他、国や都のレベルでの税制優遇や保険料の優遇、電気料金に対する補助金の廃止なども必要ではないかという意見もありました。

ミッション③ 住宅の省エネ改修（テーマ2 改修の促進）

【ワークシート】

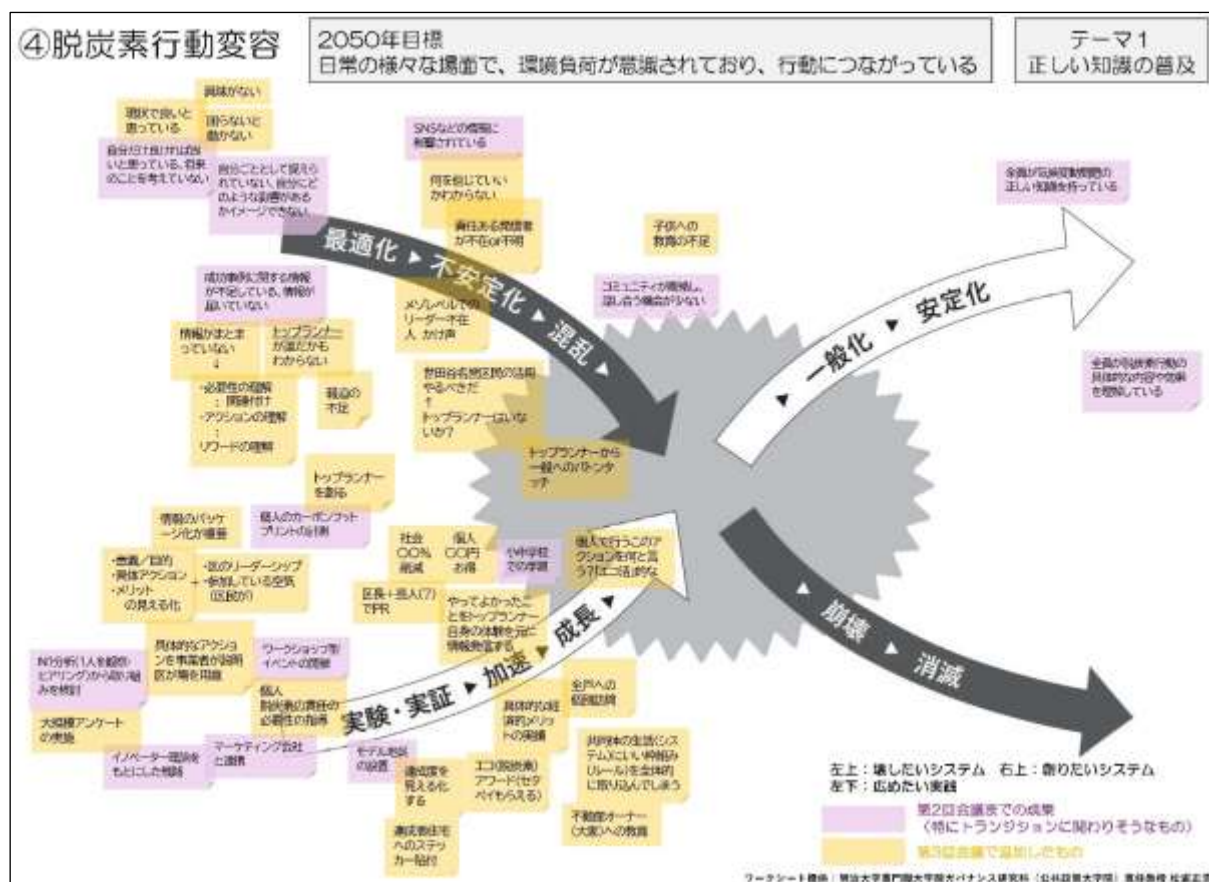


【発表の内容（要約）】

- 3つ課題が挙げられました。1つ目は費用面です。2つ目は信頼できる業者かどうか見分けられない、情報が多すぎて比較検討できないということです。3つ目は集合住宅や賃貸に住んでいる人が改修する方法がないということです。
- 住宅の省エネ改修を広めていくために、ハザードマップで耐震化が必要な地域で築年数が経った家を抽出し、改修を案内するDMを送ってもらいたいと考えています。これを見て改修を申し込んだ人には、一定期間、固定資産税を減税してもらいたいと考えています。また、施工後は、一定期間モデルハウスとなってもらえるように依頼すると良いと考えています。
- その他、改修後のモデルハウスを見学したり、実体験を聞く場を設定してもらったりしたいと考えています。その場に専門家がいると質問ができて良いのではないかと意見もありました。
- 集合住宅に関しては、省エネ改修をしている家庭や大家をウェブサイト上で公開し、省エネ改修をすることの利点を他の大家に知らせてもらいたいと考えています。

ミッション④ 脱炭素行動変容（テーマ 1 正しい知識の普及）

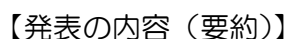
【ワークシート】



【発表の内容（要約）】

- ・ 現状を3層に分けて考えました。1つ目は、意識も知識もないという層です。2つ目は、意識はあるが知識がないという層です。3つ目は、意識も知識もあるが行動をしない、行動する方法がわからないという層です。
- ・ 脱炭素行動を広めていく方法を考えるためには、まず、現状を正しく把握する必要があります。そのために、大規模なアンケートを行いつつ、N1分析（特定の1人を深く観察・ヒアリングし、その行動や感情から本質的なニーズや課題を導き出す手法）をする必要があると考えています。
- ・ 誰が広めていくのかという点では、区や都や国といった行政、各メーカー、コミュニティ、集合住宅の大家など様々な主体があります。また、広めていく方法に関しては、アワードを設ける、具体的なメリットを共有することなどを通じて、まずはトップランナーを作る必要があると考えています。さらにそのトップランナーが広めたものを、一般の人にバトンタッチしていく必要があります。その際、経済的なメリットをしっかりと示すことが大事という意見がありました。

【ワークシート】



- ・ 左上の「脱炭素社会へ向けた障壁」については、興味があっても正しい知識などを知る機会がないこと、一人で行動しても変わらないと考えてしまうことなどが挙げられました。興味がない人に関しては、脱炭素行動をとることに手間がかかること、コストに見合わないことなどが挙げられました。
- ・ 左下の取り組みについては、まずは小中学校での学習や保護者会での議論などが大事と考えています。興味がある人に対しては、「世田谷版気候市民会議」のような取り組みは知識を高める効果が高く、このような取り組みが継続的に行われることが大事と考えています。また、駅などで情報提供したり、SNS を使った発信をしたりして欲しいと考えています。
- ・ 興味がない人に対しては、マーケティング会社などと連携し、せたがや Pay と連動した脱炭素アプリを作ってもらいたいと考えています。また、脱炭素行動がカッコ良いと思われるようにすることや、世田谷脱炭素のシンボルマークを作ってもらいたいと考えています。
- ・ 長期的には、興味がある人もない人も納得した上で、車線を減らして自転車道をつくったり、循環バスやシェアサイクルを普及させたりするような交通施策を進めてもらいたいと考えています。

5.参加者の印象に残った点や感想など

【第3回会議の講演に対する感想】

- ・ 脱炭素に向けて新たな視点で考える事が出来大変勉強になりました。
- ・ 知らないことばかりで大変興味深く講義を聴かせていただきました。時代を振り返ればシステム変化に適応していく人間の柔軟性はすごいものがあるなと感じます。2050年の世界を見届けることができれば、この気候市民会議のことをしみじみと思い出したいと思います。ありがとうございました。

【全3回の会議を終えて印象に残った点】

- ・ 難題もグループワークで取り組めたこと。
- ・ 世田谷区に於ける太陽光発電設置（各家庭の）必要性和有意性が判ったこと。

【全3回の会議を終えての感想など】

- ・ とても有意義だったので、ぜひ続けて頂きたい。
- ・ 様々な年代の方とお話することができ、社会的にも良い経験となった。
- ・ とても良い機会を与えて下さり、ありがとうございました。気候変動などの情報をしっかり受け止め、考え、行動する必要を学びました。
- ・ 地球にとって、人々にとって、より優しい社会になりますよう切に願っております。また機会がありましたら参加させていただけると嬉しいです。貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました。
- ・ 参加前と参加後では、少しずつですが、省エネに努めるなど、明らかに違った生き方になりました。
- ・ 地球温暖化に対する危機感を持って会議に参加される方がこんなにもいらっしゃることに勇気づけられ、自分にできる事を引き続きやっていこうと思いました。今回参加したことで、長年環境問題に取り組んでこられた先生方の講義を受けることができて、大変良い経験となりました。
- ・ 今後も技術革新は必要だし、期待したいが、今ある対策でも皆が真剣に取り組めば、ドラスティックに変わる可能性があることを知り、明るい気持ちになると同時に、個々人のモチベーションを上げていくという課題は難しさもあると思いました。その中で、こどものいる家庭は、保育園や学校が地域社会とのつながりを考え始めるきっかけになるし、気持ち的にも「こどもたちのため」をフックにすると、無理のない参加の糸口となります。会議でも意見を述べましたが、幼保育園、小中学校をうまく使うことが大事だと思います。
- ・ 最後の発表緊張しました

- ・ 戸建て住宅（建物）が22年ほどで価値ゼロになってしまうのが気になるところです。税法上しかたないとはいえ、このような価値観が日本で当たり前なのが残念でなりません。当たり前に100年以上住める住宅というヴィジョンのもと、世田谷区として政策を考えていただけたら幸いです。
- ・ 今回は貴重な機会を頂き有難うございました。3回ともに有意義な時間を過ごせたのは、運営とファシリテーターの皆さんのおかげと感謝しています。
- ・ 運営事務局の卒のない進行。各回専門家の講義あり、グループワークありの内容で楽しかった。運営事務局とファシリテーターの手腕により、最後には提言をまとめるところまで持っていく。いろいろな意味で非常に参考になりました。
- ・ グループの司会進行のお陰で、一個人が意見を出しやすく、スムーズに進めて下さり、とても、素晴らしいと思っています。また、全体として、いろいろな人の意見をしっかりまとめ、事前の案内、資料作成、当日の進行がスムーズで安心して参加出来ました。ありがとうございました。
- ・ 会議の内容が後日きちんと整理されてメールで配信されたので、内容を振り返ることができてわかりやすかったです。
- ・ 運営者の皆さんの努力と工夫が判り、お疲れ様でした。有難うございました。